

仏教美術等についてのアンケート調査結果(概要)

1. 調査の概要

- 調査時期：平成23年(2011年)5月～6月
- 対象者：県政モニター 354人
- 回答者：275人(回収率 77.7%)
- 担当課：文化財保護課

○調査の目的

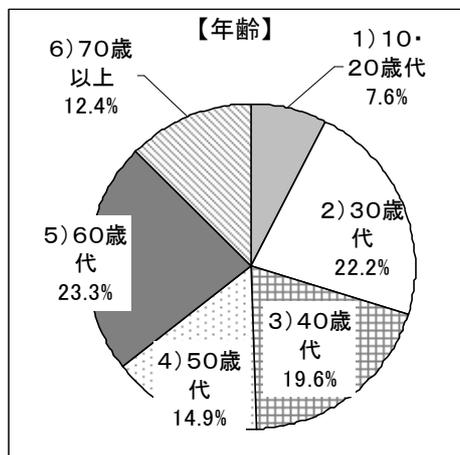
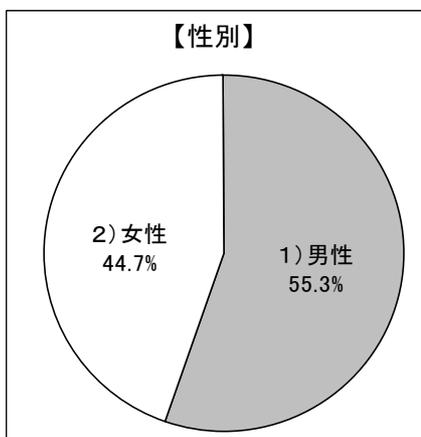
寺社の建造物、仏像彫刻、仏画、書跡などの“仏教美術”に対する県民の皆さんの関心や、琵琶湖文化館(※)についての意識等を把握することを目的とします。

※ 県立琵琶湖文化館(大津市打出浜)は、国宝・重要文化財の収蔵数としては全国の博物館の中で第6位となる多数の収蔵品を有していますが、施設の老朽化等のため平成20年4月から休館しています。また、平成21年12月に県で策定した「外郭団体および公の施設の見直し計画」において、“現施設の機能は廃止することとし、『別の展示保存施設』の確保に努める”こととしています。

○回答者属性(問1～問3)

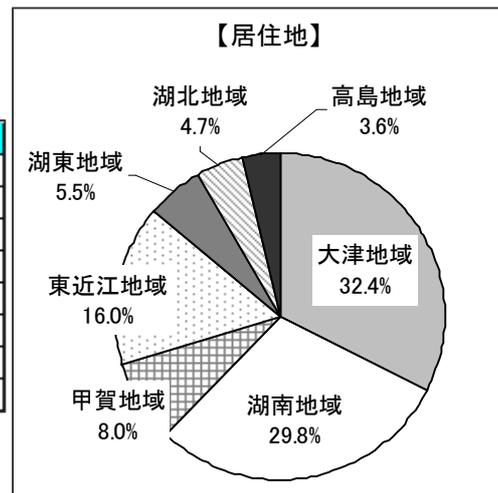
<性別・年齢別内訳>

	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計	構成比
男(人)	5	16	23	24	52	32	152	55.3%
女(人)	16	45	31	17	12	2	123	44.7%
計(人)	21	61	54	41	64	34	275	100.0%
構成比	7.6%	22.2%	19.6%	14.9%	23.3%	12.4%	100.0%	



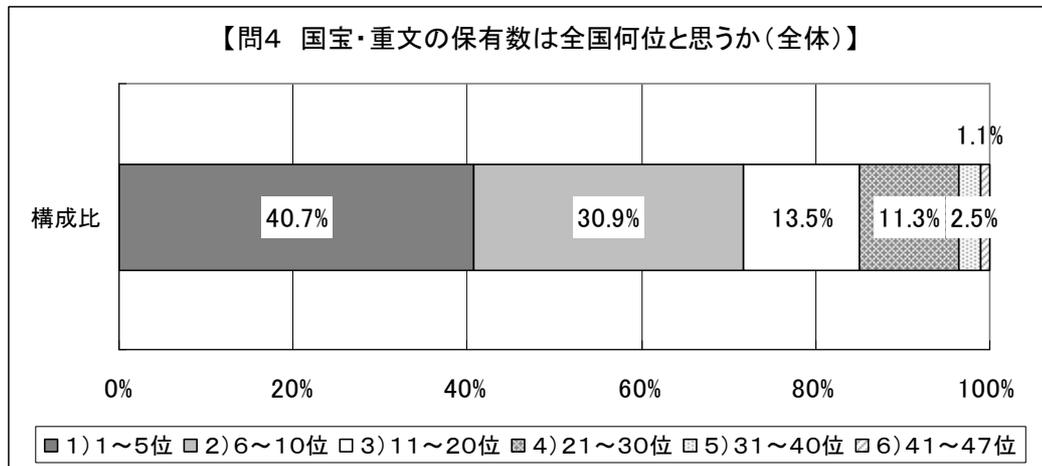
<居住地別内訳>

項目	人数(人)	構成比
1)大津地域(大津市)	89	32.4%
2)湖南地域(草津市、守山市、栗東市、野洲市)	82	29.8%
3)甲賀地域(湖南市、甲賀市)	22	8.0%
4)東近江地域(近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町)	44	16.0%
5)湖東地域(彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町)	15	5.5%
6)湖北地域(長浜市、米原市)	13	4.7%
7)高島地域(高島市)	10	3.6%
合計	275	100.0%

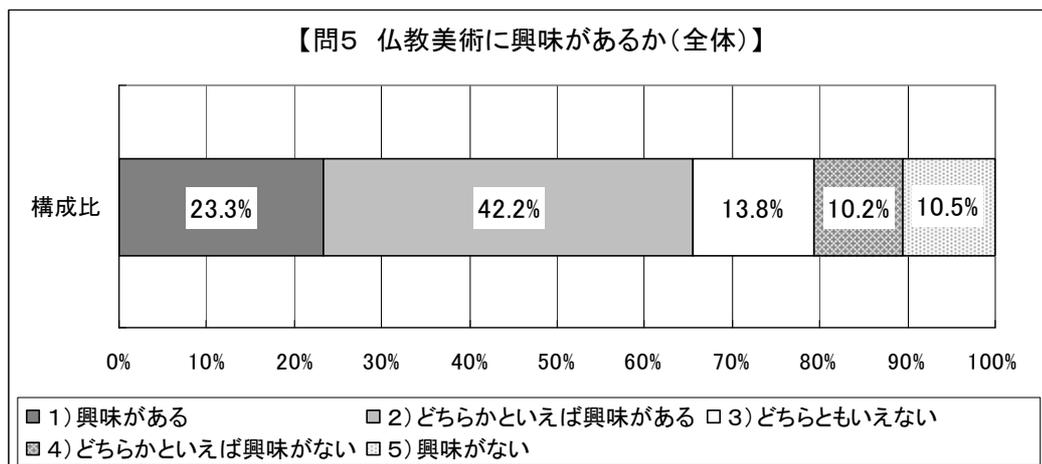


2. 質問事項と集計結果

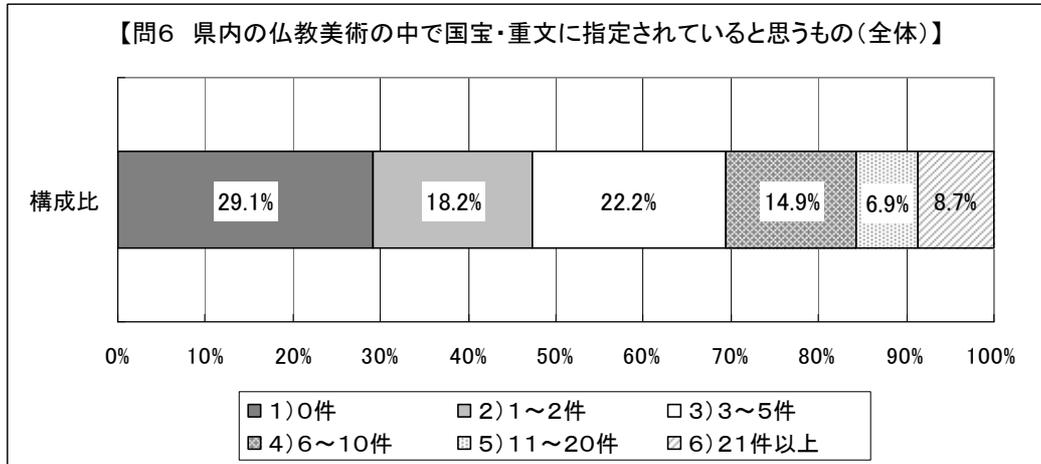
問4 滋賀県の国宝・重要文化財の保有数（寺社等の建造物や仏像等の美術工芸品の合計数）は、全国47都道府県のうち何位だと思いますか？



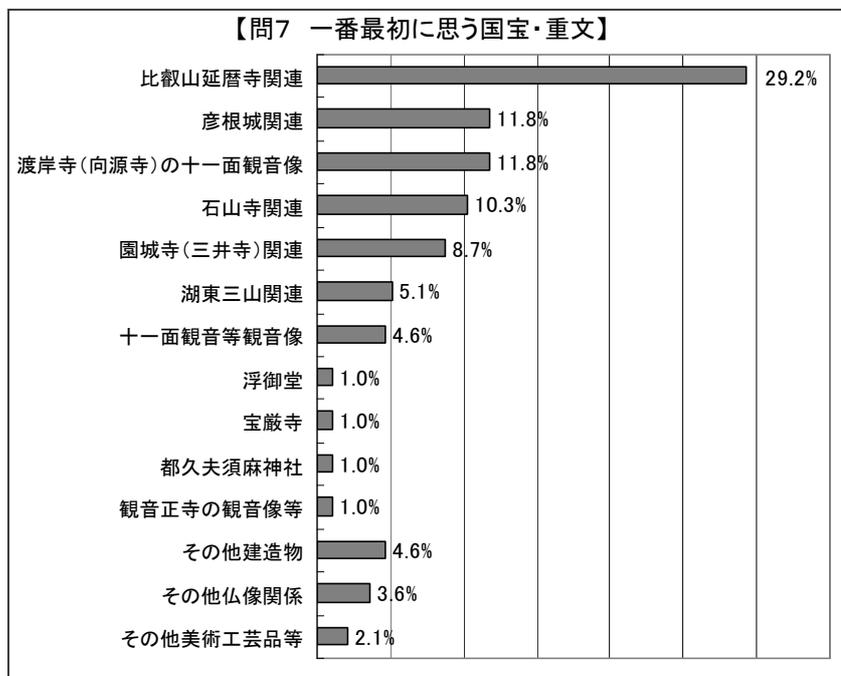
問5 寺社の建造物、仏像彫刻、仏画、書跡などの仏教美術（以下「仏教美術」といいます。）に興味がありますか？



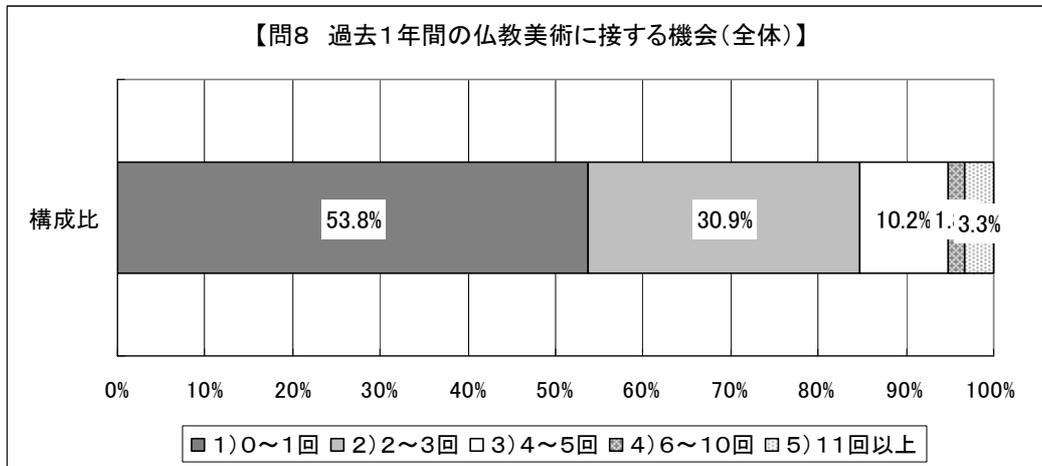
問6 県内の仏教美術の中で、国宝・重要文化財に指定されているものとして思い当たるものがいくつありますか？



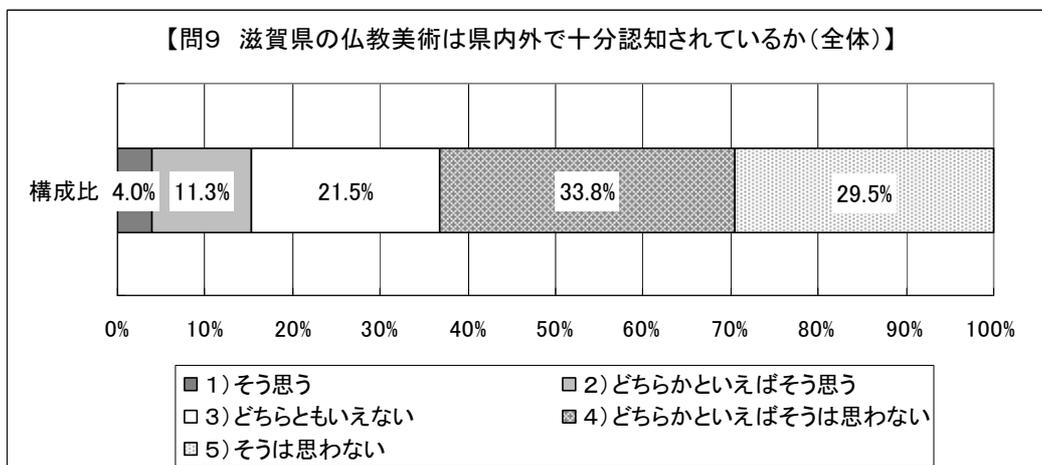
問7 【問6で1以外を選択された方にお尋ねします】
1番最初に思い当たるものは何ですか (自由記載)



問8 行楽や展覧会等を通じて、仏教美術に接する機会が、過去1年間で何回くらいありましたか？

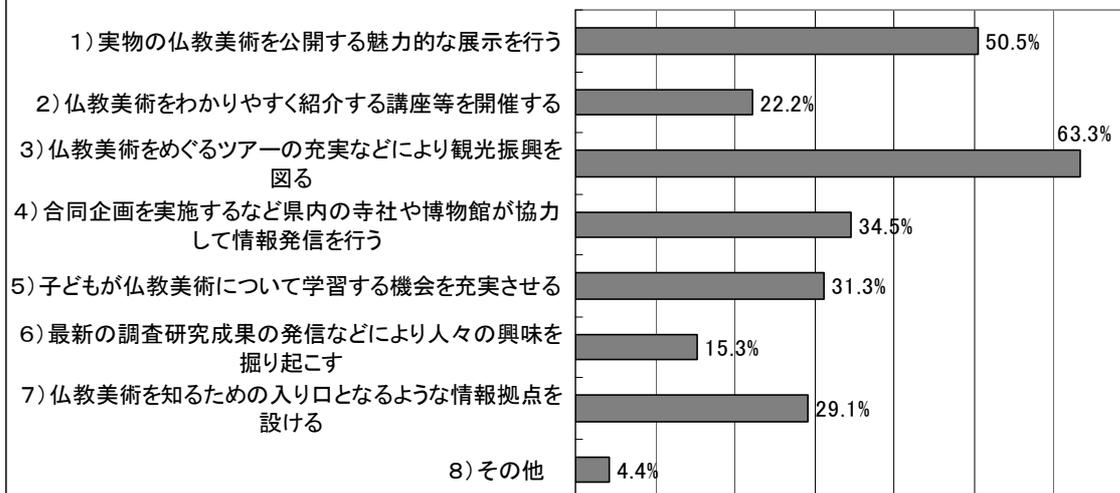


問9 滋賀県の仏教美術について、県内外に十分知ってもらっていると思いますか？



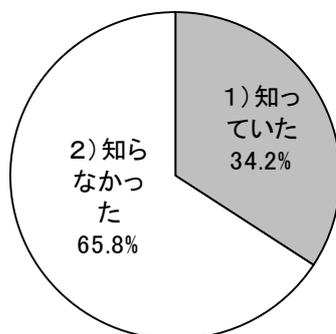
問10 滋賀県の仏教美術の県内外への情報発信について、どのような取り組みが必要だと思いますか
(〇は3つまで)

【問10 滋賀県の仏教美術の情報発信に必要な取り組み】

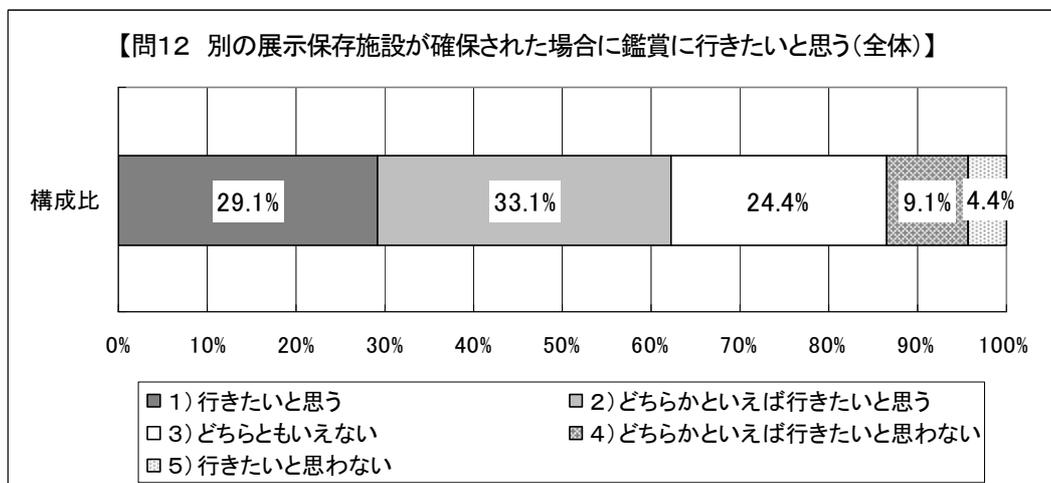


問11 琵琶湖文化館が、滋賀県ゆかりの仏教美術をはじめとする多数の優れた収蔵品を有していることを知っていましたか？

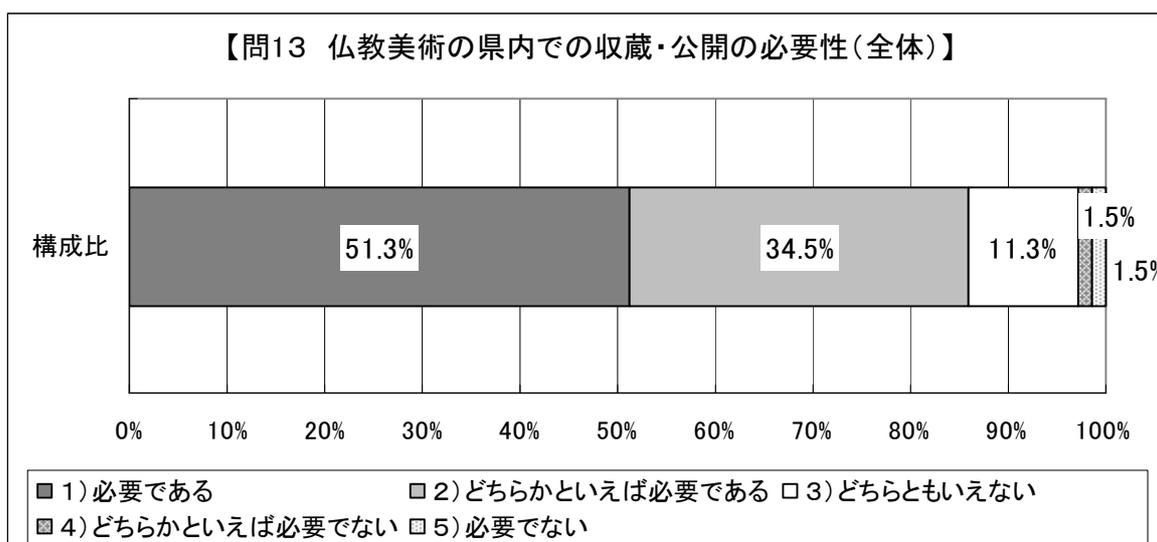
【問11 琵琶湖文化館が仏教美術等を多数収蔵していることを知っていたか】



問 12 琵琶湖文化館に収蔵されている仏教美術等の収蔵品について、『別の展示保存施設』が確保され、再び展示された場合に鑑賞に行きたいと思いませんか？



問 13 滋賀県ゆかりの仏教美術について、県内で保存し、展示公開する必要性についてどのように思いますか？



問14 仏教美術の魅力の発信についてご意見がありましたらお聞かせください。

○子どもたちが学ぶ機会の創出

- ・仏教美術と日本の歴史は、深く関わりがあるので、特に滋賀県の仏教美術を伝え広めるには、学校の授業の中で、取り上げるのが一番必要な事ではないかと思えます。滋賀県内なら、日帰り出来るので、学校の遠足などに仏教美術に触れる機会を作るのも良いと思えます。
- ・かなり多くの仏教美術を県が所有していると聞いております。歴史的な観点で体系化し子供にも分かる様な展示会を開催したり、教科書に出てくる仏教美術との同じところ、違うところ等を説明して、美と歴史に興味がある子供作りに繋げて欲しい。
- ・単なる美術品としてではなく、地域の人々の暮らしのなかでどのように守り育てられてきたかを子供たちに伝える機会が必要だと思う。

○県民が観る機会の創出

- ・大津市民に対し1カ月に1度第3日曜日を無料拝観にしているが天候とか他の用事とバッティングすることが多く、せめて月2度無料拝観にできないか。大津市民が行くことにより滋賀の文化財をより宣伝できるのではないか。
- ・琵琶湖108霊場めぐりをしていると地元で半世紀も住んでいて、まったく知らなかったお寺や仏像を見ることができ、はっきり言って、驚いています。(国宝や重要文化財でなくとも)美術館や博物館で見る立派な仏像と違い、守っておられる方々からいろんなお話を聞く事で、仏像や建物を取り巻くその場の空気とリアルな臨調感を感じることができます。ただ、多くの人が訪れるようになると、物騒になり、今まで地元の方々が守ってこられたものが壊されてしまいかねないので、このままひっそりとされているのがいいのかも判らないとも感じます。
- ・日常生活のうえでは、なかなか仏教美術に出会うことがなく、グループやツアーの旅行の際に、国宝のある寺院の見学をすることが多いので、多くの県民にもっとアピールが必要と考えます。見学会の開催、登録者にメールによる施策の案内等
- ・県内を巡回して展示会を開催して欲しい。

○メディア・インターネットの活用促進

- ・一般の方々に発信するには、旅行雑誌等にとり上げて貰い集客を増やしていくのも一つの方法だと思います。
- ・関西地方以外では仏教遺産は京都や奈良には多数存在するが、風景絶佳のびわこをよく知る人でも近江の国にこんなに仏教遺産があることは知らない人が多い。優れた湖国の仏教美術をもっと全国の皆様に知ってもらうためにもマスコミメディアやインターネットを利用した効果ある周知活動をするべきだと思います。
- ・もともと仏教美術に興味がある人は、自分で調べてでも見に行ったりすると思いますが、興味の無い人は、展示されているという情報があっても素通りしてしまうのではないのでしょうか。もっと仏教美術が気軽に楽しめるような発信の仕方をしていく必要があると思います。小説や映画、ドラマなどと結び付けて紹介すれば、より身近なものとして感じられるのではないのでしょうか。

○滋賀県らしさを生かした情報の発信

- ・京都、奈良の方が有名で今ひとつ滋賀のイメージがわからないと思えます。もっと滋賀の特徴を明確にして情報発信する必要があると思えます。
- ・特に鎌倉仏教以降、歴史的にも滋賀県が仏教の信仰の舞台として多くの美術品が残されており、滋賀県内の独自の仏教の歴史と言う観点での表現・発信ができれば、県民の意識としても高まると思えます。

○情報発信の工夫

- ・歴史に興味がない方には仏教美術、と聞くだけで敬遠されることが多いと思います。どうやって多くの人が興味をもつ事柄と結び付けるかが重要だと思います。今なら大河ドラマと関連づけることもできます。また、仏像の美術的特徴よりも、その時代の人々が仏教に何を求めてその仏像が生まれたのか、という生きた思いとつなげると身近に感じてもらえると考えています。歴史は現在とつながっているものです。自分ともつながっていると感じてもらうことが、多くの人を惹きつけるために必要だと思います。
- ・県内の国宝マップを作り、それを団塊の世代向けにPRするとかすべき。とにかく発信力・企画力に乏しいと感じる。
- ・古の魅力を展示するだけでなく、音と映像を伴ったコラボレーションが必要と考えます。
- ・問10の1から7までがその通りと思考する。以上のような事を実施する事により滋賀の仏教美術の魅力が必然的に向上する。要はPR不足では無いか、マスコミや旅行会社、県の関係施設を利用し興味関心を広め深める事、また県下の各寺社の事情により仏教美術品の保管、管理、展示等に困惑されている所も有るように見受けるので連携を強化して盗難、売却、流失、修理などの相談に県として今まで以上に効果的な対策をすべきと思う。
- ・地元の間人が知らないことを県外の人を知っているはずがありません。私の群馬の友人は仏教美術にとっても造詣が深く暇を見つけては寺社仏閣めぐりをしているのですが、私の知る限り滋賀県に来たことは一度もありません。私も、一応有名な寺の名前をいくつか出すことはできますが、場所を知っているのは片手で足りるくらいです。勉強しようと思いましたが、まとまっている情報にどうアクセスすればいいのかわからず、手が出せない状態です。情報の整理・集約・提供と交通網の整備を並行して進めていただきたいです。車がなくても気軽に安く移動できる手段があればといつも思います。

○県外への発信

- ・日本の美術は仏教を中心に発展して来たと思う。滋賀県には素晴らしい社寺仏閣や庭園が多く、一部では観光化されているが、公開されていない所が沢山あると思うのです。他県の美術館等でも展示し、「滋賀の美」を発信したいものです。
- ・滋賀が誇る仏教美術について県外また国外に発信することは、滋賀をアピールすることになると思うのでこれからも期待したいです。

○観光関連事業の推進

- ・近くに京都、奈良があるので滋賀にも仏教美術を押すのはかなり難しいような気がします。どうしても仏を観光に行くなら奈良、京都になりがちです。仏教美術を知ってもらうには、まず滋賀県の魅力を知ってもらうツアーなどを企画し、その一環として湖東三山の訪問など身近なところから知ってもらう必要があるのかもしれない。
- ・滋賀のお寺はあまり俗化していない所に良い所があります。シルバー層をターゲットに歴史的価値や信長、秀吉等の有名武将との関係をしっかり説明し、一度きて見たいと思わせる事が大事。
- ・三井寺、石山寺、延暦寺、義仲寺、西教寺等滋賀県は京都、奈良にも劣らない仏教に関する文化財が存在している。しかし京都、奈良に比べると内容は匹敵するのに知名度は低いと思われる。PRもさることながら、文化財は滋賀県の広い領域に拡散しているので行きにくい面もあるのではないかと思う。文化財めぐりのバスツアーを考えてもよいのではと思う。

○魅力発信には賛同しない

- ・そもそも私は仏教美術にさほど興味がない為、滋賀県が仏教美術の魅力発信を行うことに対して、賛同したいとは思わない。

問 15 琵琶湖文化館についてご意見がありましたらお聞かせください。

○展示・公開事業の推進

- ・小学生のころ行った記憶がありますが、それきりです。膨大な収蔵物があることを閉館の話とともに知りました。実はすごい施設だったんですね。もっと活用できなかったのかと残念に思いました。小学生のころは全くおもしろくない施設でしたが、今見たら結構楽しいんじゃないかと思うんです。それだけたくさんのお蔵品があるなら、別の展示保存施設でとっかえひっかえ展示を入れ替えてみたらどうでしょうか。いろんなくりで企画展をしてみたら、ちょっと行ってみたいくなるかも。
- ・琵琶湖文化館については、なんともいえないが、少なくともその収蔵品については、県民の財産であるから、県民の目に触れるところに展示すべきである。琵琶湖博物館など類似の施設が多くあるのだから、文化館を廃止することがあっても、収蔵品だけは展示する方向で検討すべきである。

○情報発信の推進

- ・琵琶湖文化館の存在は知っていましたが、展示内容は全く知りませんでした。PR 不足？小生の無関心もありました。琵琶湖文化館は「仏教美術」だけでなく、一帯を県民の文化ゾーンとして県民が常に足を運べる催しを企画して欲しい。
- ・ホームページは素晴らしいものであると思うし、活動内容も人気があるように思う。
- ・私の住む湖北地域では、琵琶湖文化館の情報が身近ではなく、まったくわかりません。インターネットを開けばいいのですが、あること自体しりませんでした。湖北地域のほとんどの人が知らないと思います。まず、県民に情報を届けるということを一番にする必要があると思います。
- ・琵琶湖文化館がどこにありどのような優れた収蔵品を有しているのかを、もっと県民に知らせ興味関心が持てるようにしていく必要があると思う。
- ・琵琶湖文化館を今回、調べて初めて知りました。城の様なものが大津にある事は知っていましたが、それが琵琶湖文化館である事を今回知りました。琵琶湖文化館をもっと知ってもらう必要が有ると思っています。

○別の展示保存施設の確保

- ・耐震性で閉館・・・仕方ないですが、滋賀の文化財が他の都道府県の管理に流れないように、速やかに保管できる文化館の代りのものを作るべきです。そのために寄金、無利子県債等工夫をして速やかな代替館の建設を望みます。出来るだけ鉄道の駅に近いところ、休校となった校舎校地も候補ではないでしょうか。時間はないと思います。他に流れないように。
- ・施設の老朽化で博物館の機能がなくなったことは残念。新しい代替施設が開設されることを望む。
- ・何度も通いました。このようなご時世ですから廃館もやむをえないと思いますが、変わるものをお願いしたいです。文化はソロバンになじめないものもありましょ。バランスシートだけで存在を左右すべきではないと思います。が度外視して箱物づくりに熱を上げてもらっても困ります。人が集まらなければ人が集まる複合施設もありだと思えます。
- ・昔、遠足で行ったことを覚えています。大人になってからも何回か訪問しました。湖に浮かぶ建物に驚いたことを思い出しました。建物に入れないのは仕方がないので中の展示物が他の場所でも再び見られることを望みます。
- ・琵琶湖文化館に代わる、立派な建物が必要です。立地場所、建築費など大きな問題もあり、県民の皆さんから知恵をいただき、検討しなければと思います。

○別の展示保存施設の候補地

- ・滋賀に相応しい最適地に位置しているが、現在としては、駐車場をはじめ入館し難い（閉館のままで正解だと思う）施設になってしまった。再建されるなら仏教に似合う閑静で、琵琶湖が望める高地も候補地に入れてほしいものです。
- ・もう少し、近代的で足が運びやすく若者も高齢の方も行きやすい場所で改めて展示ができるようになることを期待しています。
- ・建築物が古いの、場所が県の端に偏っているの、近江八幡市など、県の中央部の交通の便の良い場所に再建築（または移転）すべき。

○別の展示保存施設として既存施設の活用

- ・まず、県として、どうしたいのか？今の状態では「倉庫」みたいである。現実問題、維持するにも解体するにしても、資金は必要。一体、いくら必要か見積もり、県民に提示し、意見をもとめることが必要と考えます。解体となれば、県立近代美術館で常設展示という選択肢もあると考えます。
- ・滋賀に引っ越してきた当初に訪れたときは日曜日だと言うのに誰も居なく何ともったいない施設なんだろうと思った。無駄な施設も多いが無駄にしている施設も多い。努力が足りない。これ以上県の予算を使って『別の展示保存施設』を設けなくて県立美術館や大津歴史博物館などに展示して分散せずにそれぞれをもっと充実させたほうがよいと思う。

○保存・管理の確立

- ・琵琶湖文化館が県内の文化財を引き取り保管しているということをいつかの新聞で知り、大変素晴らしいことだと感じました。文化遺産の多い滋賀県には無くてはならない施設だと実感しています。今後も滋賀県はこの施設を運営していくために、予算の裏付けをきちんと保障するべきだと考えます。
- ・琵琶湖文化館は長い歴史の中で所有者の協力の基に、文化財を保存してきました。一方、文化館が老朽化しているのも事実でしょう。今日、最も大事なことは、管理している文化財をしっかりと管理することであり、一時的に公開ができなくなるとしても、展望をしっかりと県民と知らせてほしい。今の県の姿勢からは「貴重な文化財を守り保存していく」という熱意が感じられません。ただ、「文化館が古くなったから」だけという理由では真意はそうではないでしょうが、あまりにもお粗末に聞こえます。

○駐車スペース、交通アクセスの充実

- ・無料駐車場も必須です。前のところは施設は知っていますが、駐車場はどうなっていたのか記憶になく、滋賀はやっぱり横に広い駐車場が必要だと思うので。
- ・アクセスの利便性も（安い駐車場、シャトルバス）も検討して頂きたい。

○琵琶湖文化館の建物の活用

- ・琵琶湖文化館が閉館されたのは残念です。建物もユニークですし更なる活用を検討して欲しい。ただ、エレベーター、エスカレーターなどの施設が無いので利用勝手は悪い。

琵琶湖文化館にかかる資料

1 琵琶湖文化館の沿革

- 昭和36年3月 琵琶湖文化館開館（博物館・美術館・水族館）
- 昭和51年1月 文化庁長官による重要文化財の公開施設（勸告・承認出品館）
- 昭和52年8月 博物館法に基づく登録博物館（滋賀県第1号）に登録される
- 昭和59年8月 県立近代美術館開館（絵画109件を近代美術館に移管）
- 平成4年11月 県立安土城考古博物館開館（主な考古資料を安土城考古博物館に移管）
- 平成8年10月 県立琵琶湖博物館開館（水族部門を琵琶湖博物館に移管）
- 平成8年12月 重要文化財の公開承認施設として承認される（全国に109館）
- 平成9年10月 館内の改装工事（リニューアル工事）の実施
- 平成20年4月 施設の老朽化等のため、収蔵機能、調査研究機能は維持し休館

〔休館の理由〕

本県の財政事情はもとより、施設の老朽化や耐震対策、さらにはバリアフリーへの対応など様々な課題が要因となっている。

- 平成21年12月 県の「公の施設の見直し計画について」において次のとおり計画を策定

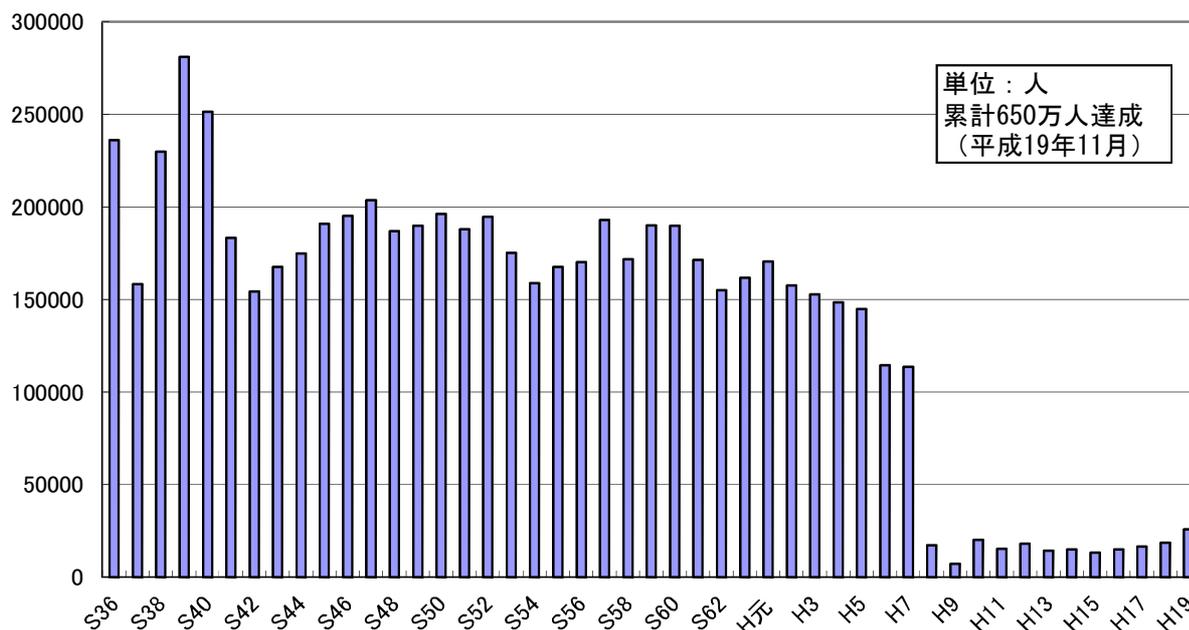
〔見直し方針〕

建設後半世紀経過し、収蔵庫・展示室も手狭となっていますが、増改築が困難であり、新たな収蔵品の収集、保管、展示に影響を与えるため、現施設の機能は廃止します。別の展示保存施設の確保に努めますが、確保までの間、休館中の現施設において保管を継続します。

〔具体的取り組み内容〕

琵琶湖文化館が果たしている機能を継承するため、別の展示保存施設の確保のため基本的考え方を整理し、財政状況等を踏まえながら、平成24年度までに検討を終えます。

2 琵琶湖文化館入館者数の推移



琵琶湖文化館 展覧会別観覧者数

平成15年度

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
特別展	釈迦の美術	H15.10.11～11.16(33日間)	2,236	68
企画展示	湖辺集落を読むー新守山川関連遺跡	H15.5.29～7.6(36日間)	1,011	28
小企画展	平成14年度滋賀県新指定文化財展	H15.4.22～5.5(13日間)	486	37
小企画展	西明寺の羅漢図	H15.4.22～5.25(30日間)	920	31
小企画展	平安時代の彫像	H15.7.10～8.31(46日間)	1,774	39
小企画展	磬と華鬘	H15.11.20～12.28(34日間)	661	19
テーマ展	円山四条派の絵画 など7タイトル	H15.4.1～5.25(270日間)	7,347	27
収蔵品貸出による観覧者数			112,300	

平成16年度

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
特別展	フェノロサ・天心の見た近江	H16.10.9～11.14(32日間)	2,663	83
小企画展	平成15年度滋賀県新指定文化財展	H16.4.9～4.25(15日間)	400	27
小企画展	透彫ー技法に見る美意識ー	H16.4.27～5.6(36日間)	1,048	29
小企画展	肖像の世界	H16.6.8～7.4(24日間)	566	24
小企画展	神々のかたちー彫刻と絵画ー	H16.7.6～9.5(54日間)	1,703	32
小企画展	漆工の美	H17.1.4～2.13(36日間)	834	23
テーマ展	近世絵画による四季の彩り など7タイトル	H16.4.1～5.23(268日間)	7,250	27
収蔵品貸出による観覧者数			396,378	

平成17年度

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
特別陳列	聖武天皇とその時代ー天平文化と近江	H17.8.6～9.11(32日間)	2,114	66
小企画展	平成16年度滋賀県新指定文化財展	H17.4.12～4.24(13日間)	311	24
小企画展	曼荼羅展	H17.4.26～5.22(24日間)	948	40
小企画展	梵音具展	H17.6.1～7.24(47日間)	1,753	37
小企画展	地藏菩薩展	H17.10.8～11.6(26日間)	914	35
テーマ展	近世絵画による花と鳥 など7タイトル	H17.4.1～5.22(296日間)	10,617	36
収蔵品貸出による観覧者数			545,181	

平成18年度

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
特別展	桃山ー華麗なる黄金の世紀ー	H18.10.7～11.12(32日間)	1,950	61
小企画展	平成17年度滋賀県新指定文化財展	H18.4.15～4.30(14日間)	735	53
小企画展	山王信仰の美術	H18.5.2～6.4(30日間)	1,418	47
小企画展	揉み紙と現代茶陶	H18.7.1～8.20(44日間)	1,324	30
小企画展	密教尊像	H18.11.15～12.27(37日間)	1,328	36
テーマ展	近世絵画による春の風物詩 など7タイトル	H18.4.1～5.28(305日間)	10,621	35
収蔵品貸出による観覧者数			428,102	

平成19年度

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
特別展	女性と祈りー信仰のすがたー	H19.10.6～11.18(37日間)	2,310	62
小企画展	地獄と極楽ー六道絵の世界ー	H19.4.24～5.20(24日間)	1,201	50
小企画展	肖像の世界	H19.5.22～7.1(36日間)	1,697	47
小企画展	滋賀県新指定文化財展	H19.7.3～7.16(13日間)	562	43
小企画展	桃山の美術	H19.9.4～10.2(25日間)	1,344	54
小企画展	青の造形	H20.2.19～3.23(30日間)	3,247	108
テーマ展	四季を彩るー山水画の世界ー など7タイトル	H19.4.1～5.27(308日間)	17,436	57
特別公開	近江の美術 第1期 花鳥風月 など3タイトル	H20.1.9～2.3(71日間)	7,160	101
収蔵品貸出による観覧者数			397,186	

平成20年度 (平成20年4月より休館)

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
特別陳列	水の浄土・琵琶湖ー琵琶湖文化館の収蔵品を中心にー	H20.11.22～H21.1.18(43日間)	4,100	95
収蔵品貸出による観覧者数			491,454	

平成21年度

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
特別陳列	よみがえった文化財ー琵琶湖文化館の収蔵品と修復の世界ー	H21.11.29～H22.1.17(36日間)	5,652	131
収蔵品貸出による観覧者数			577,061	

平成22年度

種別	展覧会名	会期	観覧者数(人)	1日平均観覧者数(人)
トピック展示	「湖の国の名宝ー最澄がつかない近江と太宰府ー」	H22.6.11～9.5(75日間)	84,322	1,124
写真展	水と仏の近江	H22.6.20～7.3(12日間)	18,263	1,522
特別陳列	四季の花に遊ぶ鳥ー琵琶湖文化館収蔵品からー	H22.12.4～H23.1.23(40日間)	3,378	84
収蔵品貸出による観覧者数			735,530	

近代美術館、安土城考古博物館、琵琶湖博物館の概要

施設名	所在地	開設年	分野
琵琶湖文化館	大津市打出浜地先	昭和 36 年	美術<休館中>
近代美術館	大津市瀬田南大萱町	昭和 59 年	美術
安土城考古博物館	近江八幡市安土町下豊浦	平成 4 年	歴史
琵琶湖博物館	草津市下物町	平成 8 年	総合

【滋賀県内国宝・重要文化財の分布と3候補の位置関係】



■ 3 施設の概要

①施設テーマ・方針

施設名	テーマ・特色	重要文化財の 収蔵状況	文化財保 護法に基 づく「公 開承認施 設」	学芸員の状況および 参考となる企画展等
近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の優れた美術作品の鑑賞を通して、県民の美術に対する理解を深め、美に対する感覚を養い、生活の中にあるおいと心の豊かさをもたらすことを目的とした活動を行っている。 ・近代日本画、郷土の美術、アメリカ・日本の現代美術を収集・保管 	<ul style="list-style-type: none"> ・近江名所図屏風 六曲一双 	平成 13 年 12 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸関係職員 8 名 館長(1)、副館長(1)、日本美術史(2)、工芸(1)、西洋美術史(1)、現代美術(2) ・「白洲正子展」(H22)、「神仏います近江展」(H23 予定)など仏教美術等を取り扱う
安土城 考古博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・「近江風土記の丘」(特別史跡安土城跡、史跡観音寺城跡、史跡瓢箪山古墳、史跡大中の湖南遺跡で構成)の中心施設として滋賀の歴史・文化を発信する。 ・城郭と考古をテーマとしており、(財)文化財保護協会の調査整理部門が館内で活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野洲市大岩山出土銅鐸、東近江市雪野山古墳出土品、栗東市新開古墳出土品、野洲市西河原遺跡群出土木簡、伝織田信長所用の鉄鐺 	平成 8 年 12 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸関係職員 6 名 館長(1)、副館長(1)、仏教美術(1)、古文書(1)、考古学(2) ・「近江の観音像と西国三十三所巡礼展」(H22)など仏教美術等を取り扱う
琵琶湖 博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖に対する総合的な理解を深めることにより、湖と人間のよりよい共存関係を築いていくことを目指し、水族部門(水族館)と博物部門で構成。 ・滋賀県全体を博物館と考え住民が地域に目を向けるきっかけとなる場となることを基本としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東寺文書 107 通 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸関係職員 32 名 館長(1)、副館長(1)、考古学(1)、歴史学(1)、民俗学(1)、その他自然科学系を中心に 27 名

②敷地・施設条件

施設名	構造	建物構成	屋外付帯施設構成
近代美術館	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上2階、地下1階 ・敷地面積 18,289 m ² ・建築面積 6,773 m ² ・延床面積 8,544 m ² ・建ぺい率 37.0% ・容積率 46.7% ・建築年数 28年 (1983年竣工)	○展示部門 ・常設展示室(1)(2) 869 m ² ・企画展示室 448 m ² ×2 ・ギャラリー 478 m ² ・中庭、野外展示場 ○サービス部門 ・講堂 218 m ² ・ワークショップルーム 94 m ² ・レファレンスルーム 94 m ² ・ミュージアムショップ ・くつろぎルーム (旧レストラン) ・ハイビジョンギャラリー ○事務部門 ・事務室、館長室、副館長室、応接室、会議室、学芸室、研究室、資料室 等 ○収蔵部門 ・収蔵庫(1)(2)(3) 849 m ² ・搬入室 167 m ² 、荷解室 121 m ² 、一時保管庫 97 m ² 、燻蒸庫、スタジオ 89 m ² 、フィルム保管庫 19 m ² ○ロビー・回廊	
安土城考古博物館	鉄筋地上2階 ・敷地面積 67,837 m ² ・建築面積 4,424 m ² ・延床面積 5,846 m ² ・建ぺい率 6.5% ・容積率 8.6% ・建築年数 19年 (1992年竣工)	○展示スペース ・常設展示室(1)(2) 766 m ² ・企画展示室 295 m ² ・その他 97 m ² ○収蔵スペース ・特別収蔵庫 196 m ² ・企画展収蔵庫・収蔵室 101 m ² ・収蔵室(1~3) 839 m ² ・資料保管庫 104 m ² ・その他 414 m ² ○教育普及スペース ・情報コーナー・図書室 104 m ² ・セミナールーム 172 m ² ○研究スペース 725 m ² ○事務・管理スペース 271 m ² ○その他エントランスホール、喫茶コーナー等 1,764 m ²	○付属棟 (多目的施設) 310 m ² ○屋外展示 ・旧宮地家住宅、 ・旧柳原学校校舎、 ・旧安土巡査駐在所
琵琶湖博物館	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造) 地下1階、地上2階※本館棟 ・敷地面積 42,434 m ² ・建築面積 13,209 m ² ・延床面積 23,987 m ² ・建ぺい率 31.1% ・容積率 56.5% ・建築年数 15年 (1996年竣工)	○博物部門 (博物館) ・管理部門 982 m ² ・展示部門 4,122 m ² ・交流部門 3,732 m ² ・研究部門 1,604 m ² ・収蔵部門 4,647 m ² ・その他 4,596 m ² ○水族部門 (水族館) ・管理部門 34 m ² ・展示部門 1,984 m ² ・研究部門 188 m ² ・収蔵部門 353 m ² ・その他 1,745 m ²	○展示・観察・体験施設 (太古の森、縄文・弥生の森、生活実験工房、田んぼ・畑、生態観察池、生態観察水路) ○保護増殖センター ○実験施設 (温室、実験水路、実験池) ○その他付帯施設 (環境水路、野鳥観察舎、駐車場、屋外食事施設)

③周辺環境

施設名	立地環境	周辺の施設
近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖や比叡山、湖南アルプスを望む大津市の瀬田丘陵文化ゾーン（びわこ文化公園〔都市公園〕43.2ha）の一角に位置する郊外型美術館 	<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館 県立埋蔵文化財センター 日本庭園 茶室 こども広場、彫刻の路、催し物広場 等
安土城考古博物館	<ul style="list-style-type: none"> 安土城跡の近くに造られた歴史公園「近江風土記の丘」の中核施設 	<ul style="list-style-type: none"> 安土城天主信長の館 安土城跡 大中の湖南遺跡 瓢箪山古墳 観音寺城跡 等
琵琶湖博物館	<ul style="list-style-type: none"> 草津市の琵琶湖に突き出す烏丸半島に位置し、植物公園や風車など環境関連施設が集積 	<ul style="list-style-type: none"> 草津夢風車 はすの群生 草津市立水生植物公園みずの森 等

④アクセス

施設名	公共交通によるアクセス	公共交通によるアクセス(広域)		自動車によるアクセス(最寄りIC)	駐車場の整備状況
		大磯駅からの所要時間	米原駅からの所要時間		
近代美術館	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">瀬田駅 (JR琵琶湖線)</div> バス 15分 徒歩 5分	約 65 分 (新快速 京都駅 経由)	約 60 分 (新快速 草津駅 経由)	・名神高速 「瀬田西 IC」 ・新名神 「草津・田上 IC」 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">所要時間 約 5 分</div>	・普通車 320 台 (文化ゾーン全 体の駐車場)
安土城考古博物館	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">安土駅 (JR琵琶湖線)</div> 徒歩 25分 (レンタルバイク 9分)	約 90 分 (新快速 野洲駅 経由)	約 50 分	・名神高速「竜王 IC」 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">所要時間 約 20 分</div>	・普通車 70 台
琵琶湖博物館	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">草津駅 (JR琵琶湖線)</div> バス 25分	約 75 分	約 60 分	・名神高速「栗東 IC」 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">所要時間 約 25 分</div>	・普通車 480 台 ・大型車 40 台 ・障害者用 12 台 (他の施設との 共通駐車場)

所有者ヒアリング調査の結果概要（主な意見）

○「別の展示保存施設」の必要性について

- ・琵琶湖文化館が、休館により「勸告・承認出品館」（文化財保護法第48条に規定する文化庁長官による国宝・重要文化財の公開施設）でなくなったことは残念で、復活を望んでいる。
- ・滋賀県内の神社や寺は地域社会に根ざしているが、その地域社会が崩壊している。あと10年もすれば、全く別の地域に変貌していることも考えられる。展示は別として、文化財を保管する施設がますます必要となる。
- ・世相が悪くなると文化財を保管するリスクが高くなる。リスク回避のため、寄託を受け容れてくれる施設ができれば所有者も喜んでくれる。
- ・職員がいないところでは神像など文化財の管理が行き届かない。文化財を預かってくれると警備面で大いに助かる。神像は仏像と違って開帳するわけにもいかない。

○「別の展示保存施設」の方向性について

- ・琵琶湖文化館の収蔵品を分散したり、一部を所有者に返却することなく、1箇所に全部を引き継いでほしい。
- ・国立博物館などのように一旦預かると返さないというのではなく、引き続き地域との往復を心がけてほしい。
- ・仏教美術について、美術としてみる目と、信仰の対象としてみる目のいずれからアプローチされてもいいと思っている。
- ・文化財のことが県民に認知されていないというのはその通り。どんどん企画して発表していくこと、人数をかけることが必要ではないか。
- ・これからの博物館は、情報の発信が重要になってくる。文化財を守るだけでは不十分である。観光資源を預かっているのに、寺と連携しながら活用しなければならない。
- ・観光関係団体とも連携し、県内の文化・観光・特産物などに係るおおまかな情報を一元的に集約していて、どんな方面の質問にもある程度のサジェスションができたり、現地の紹介ができるような施設ができるといい。

○「別の展示保存施設」の必要機能について

- ・ここに行けばいつも観られるというのはいいこと。せつかくやるなら良い施設を防犯や防災に配慮して作り、多くの人にみてもらうことが大事。
- ・観覧者が手を合わせて拝むような雰囲気、そういう感動を与えられるような展示ができれば価値観が観覧者に焼きつく。
- ・単に収蔵するだけでなく、見学や研究に役立てていただくことが大事で、寄託にはそういう意味があると思っている。
- ・受託に向けて収蔵庫の余裕は必要。未指定でも預かれるようにして欲しい。また、地域で使用するときにはスムーズに一時返却して欲しい。
- ・既存施設を活用する場合でも琵琶湖文化館と同等以上の機能が必要。防虫・防犯・温湿度管理などの保存機能について、しっかりしてほしい。
- ・保存に力が入っているからこそ安心して預けられる。

「別の展示保存施設」の必要機能について（つづき）

- ・未指定の文化財の保護に悩んでおり、保存相談や、文化財調査の機能にも期待したい。
- ・文化財修復機能を設け、応急修理や未指定文化財の修理に対応してもらえれば便利である。
- ・文化館の機能を早く復活すること。盗難への備えや緊急避難だけでなく、調査・収集が必要で、近世の資料(古文書類)などはいまも次々と失われている状況。

○「別の展示保存施設」の取り組むべき事業について

- ・県内4ブロックくらいで中核拠点を設け、琵琶湖文化館の後継施設の収蔵品を巡回展示できれば地域おこしになるのではないかと。
- ・観光ボランティアがたくさんおられるが、東海道専門とか、それぞれ分野がある。文化財ボランティアができればいい。
- ・仏像については写真があるが、神像はない。写真撮影を実施して盗難・転売できないシステムを作ることが必要である。

○「別の展示保存施設」の候補について

- ・3つの候補では近代美術館がふさわしいのではないかと。安土は交通の便が悪いし、琵琶湖博物館は生き物などであって文化財と合わない。
- ・既存施設を活用するなら近代美術館だろう。仏教美術等を扱える学芸員がいるので安心できる。専門の人材育成に努めてほしい。
- ・3候補の中では近代美術館が現実的ではないかと。近代美術館でなければ安土城考古博物館だろうが、コンセプトが合わない。
- ・3つの候補のうち特にここを希望するところはないが、近代美術館は近代なのだから、古い物を取り扱うということについて、そのままではなじまないのではないかと。
- ・既存施設の活用は、館の名称やテーマの問題がある。いまの収蔵品と一緒になったときに仏像等の価値観がきちんと発信できるのか。初めての人でもスムーズにいけるようなアクセスも大切。
- ・後継施設には交通の便が大事であり、交通網の整備を合わせて考えるのも良いのではないかと。
- ・候補の中では安土城博物館は趣旨が違ふし、駅からのアクセスが悪い。既存施設を利用することで中途半端にならないように注意は必要。別館のような形で、名前もつけたらいい。

○「別の展示保存施設」の体制について

- ・学芸員の体制はどうか。人員の充実が必要。
- ・後継施設は人員を増やして、しっかりした体制でやってほしい。
- ・博物館も競争の時代で大変だろう。人員体制の充実も必要。
- ・物の散逸と同じく、人材の散逸も心配している。

○その他

- ・文化財の活用は保護あつてのもの。特に建造物は、美術工芸品のように寄託することもできず維持に対する負担が大きすぎる。行政の幅広い支援が必要。
- ・滋賀県は文化財が多い割には、管理体制や予算規模が小さい。どうしても京都、奈良に見劣りしてしまう。

中間まとめに関する県民等からの意見

1 中間まとめの記述と直接関係のあるご意見

番号	頁	関係項目	意見・情報の概要
I はじめに			
II 近江の仏教美術等の特徴および魅力発信の現状と課題			
1	5	2-(3) 保存管理と次世代への継承について	仏像を中心にして戦国乱世、明治廃仏毀釈をも乗り越えて、各地域の人々の献身と経済負担があつて保存されてきた。現在も各社寺の地域信者等が保存の主体であることが多く、人的・経済的負担による保全の弱体化も想定される。これまで各地域で保全に努めてきた層は今や高齢となり、日本の人口推計はすでに人口急減過程にあり、一層保全が危機に曝されることが自明である。
III 近江の仏教美術等の魅力発信の方向性と取り組みの方策			
2	8	2-(1) 取り組みの方向性	滋賀の自然や国宝・重要文化財の数が全国第4位、奥深い魅力と価値について再認識した。この得難い資産を、県民はもちろん全国的に発信をしてほしい。滋賀の良さ、これからも大いに期待している。
3	8	2-(1) 取り組みの方向性	滋賀県の国宝・重要文化財の数が全国第4位と豊富な「美」の資源を持つ県に住んでいることのすごさ、誇りを感じている。最近、NHK「江」にちなんで滋賀の美や歴史等よく目にするが、暮らしの中にもたくさんの「美」を感じている。「滋賀」をもっともっと全国に意識づけ、アピールしていただきたい。
4	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	世田谷美術館で開催された「白洲正子展」では滋賀の観光地のパネル写真も広がり、とても興味をひかれて行きたくなった。東京で開催された「国宝三井寺展」など美術展から興味をもってもらうのはいい機会だと思う。
5	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	年配の方々にはデパートの物産展などでパンフレットを配るといった方法が向いているが、幅広い年代でインターネットを使って、旅行記などを参考に仏像やお寺を検索して調べることが多い。検索結果に満足してもらえるような、より詳しい親切な情報はとても有効である。
6	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	文学(司馬遼太郎、白洲正子、万城目学)からその土地に関心をもつことが多い。見仏記、漫画(ちはやふる)、映画など、より身近なところからも若い人の関心をひく工夫をしてはどうか。
7	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	滋賀県が仏像の宝庫だということを知らない方に知らせるには、やはりTV番組や新聞雑誌などが有効かと思う。
8	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	メディアの活用…テレビの旅番組や仏教美術の紹介番組で取り上げてもらうのが一番だと思う。
9	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	歴女&仏女ブロガーの利用…週に1回程度、テーマを決めて(歴史を含めた仏教美術について)、ブログで情報を発信する。
10	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	滋賀県は、一度、その魅力に気づけば2度3度と足を運びたくなる。気づいた人が友人知人にいろいろ話をするような地味なクチコミでも少しは効果があるかもしれない。
11	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	ひこにゃんや大津ヒカルくんのようなゆるキャラがあるといいかもしれない。
12	9	2-(2) 知らせる～総合的な情報発信～	各地でのイベントの開催…地方の物産展は興味深く、人が集まる。滋賀県の観光情報の一画に仏教美術コーナーを作り、わかりやすく説明すると良いと思う。

番号	頁	関係項目	意見・情報の概要
13	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	滋賀県に来て13年になるが、県内に国宝や重文の数が全国第4位であると知らなかった。お城と称するものは1100カ所程度と聞いている。これだけの文化財・史跡があるのなら、高齢者など誰でもバスで周遊できるように観光ルートを整備して、もっと観光客誘致に生かせるようにした方が良いと思う。
14	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	滋賀旅行する場合、まずは国宝彦根城、世界遺産の延暦寺を見たいという気持ちがある。メインはこういう有名どころにおき、同時に近隣の仏教美術を廻れるツアーがあったら参加したいと思う。
15	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	バスや鉄道の本数が少なく、インフォメーションセンターも17時頃になってしまうのでとても心細く感じる。また、人がそっけなく感じることもある。
16	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	車でないと行きにくいところは、行きたいと思ってもあきらめてしまう。年に1週間でもいいから特別巡回バスが走ってくれたらいいなあと思う。乗り放題バスとか、拝観料が少し安くなるとか、魅力的。
17	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	近隣の駅で乗り捨てできるレンタサイクルが便利だ。
18	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	実際のところ、やはりアクセスが不便なこと、予約必須のお寺が多いことがネックかなと思う。
19	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	重文点数全国第3位である滋賀の仏像を現地で鑑賞する仕組み作りが必要。美術館でなく現地を訪れてもらうのが重要。滋賀だけではなく、奈良・京都とともに「仏像100選」を選定してはどうか。
20	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	観光ポイントが点々としていて面になっていないというか、実は面になっているんだけどあまり知られていないために点と点がつながらないというか、点と点をつなぐストーリーがない。
21	9	2-(2) 魅せる～公開活用の推進～	奈良国立博物館の仏像館は、東大寺・興福寺の近くにあり、まわることで平城京のストーリーが見える。滋賀では三井寺の近くに大津市歴史博物館があるが流れが見えてこない。大津歴史博物館に琵琶湖文化館はじめ滋賀県の無住のお寺の仏像を集めた、いわば奈博の仏像館のような館を設け、大津宮を再現し、ここが、柿本人麻呂が万葉集で詠んだあの大津宮か、としみじみとストーリーが見えるエリアを県外に発信していただきたい。歴史的に重要なエリアで廻れば面白いエリアなのに発信力がない、もったいない。
22	10	2-(2) 守る～保存と継承～	地域に存在する寺社の中には、地域が過疎化などで人口が減り、仏像の管理が難しく、実際に仏像が盗難された話を聞いた。地域の仏像をいかに管理するか、地域に任せっきりにするのではない仕組み作りが重要。
23	10	2-(2) 守る～保存と継承～	保存は、専用の建物を各地に設置していくのがいい(己高閣のような)
24	10	2-(2) 守る～保存と継承～	県民に広く文化財の状態と保存の必要性を訴え、財政的にゆとりあるようにしていく(予算規模を大きく)
25	10	2-(2) つなぐ～交流・発信拠点の形成～	近江の神社・仏教美術の発信のためには、永続的な保存・研究がベースになり、そのために博物館機能を充実し、県全体として統一的な政策と活動を進展させることを要望する。
26	10	2-(2) つなぐ～交流・発信拠点の形成～	少しでも多く、いろんな視点から滋賀を紹介し続けることで、より多くの方の目に入るのではと思う。仏像には興味なくても歴史には興味がある、歴史はあまりわからないけど、近江牛は食べてみたい！など、人の興味は様々なので、より多くの方の興味にヒットするような情報を発信していけばいいのではと感じる。

番号	頁	関係項目	意見・情報の概要
IV 琵琶湖文化館の沿革および現状と課題			
V 「別の展示保存施設」の確保方策			
27	16	2 求められる機能	県の文化行政は、しっかりと未来を見据え、地に足をつけた地道な展開が肝要だ。琵琶湖文化館の豊かな成果を、しっかり着実に新しい施設へ移行してほしい。
28	16	2 求められる機能	郷土の書聖というべき巖谷一六の「蘭亭序」が、仏教美術の殿堂である県立琵琶湖文化館に架蔵されているというのは、県民にとって誇らしいことである。新館に移行しても、こうした奥行き深い文化の香りを豊かに感じさせる美術館であってほしい。
29	16	2 求められる機能	近代美術館に移ってもこれまで以上にしっかりとした内容を保ってほしい。
30	16	2 求められる機能	近江の神社・仏教美術の保全について、今後は県がセンターとなり博物館機能を強化すべく、近在府県に劣らぬ県立博物館を整備すべきである。
31	16	2 求められる機能	いい仏像がひっそりと小さなお堂にいらっやっやって、それらを地元の人たちが大切に守っていらっやっやるが、これから先、守る方がいなくなってしまうたらどうなってしまうか心配。仏像はお堂で手を合わせて拝観する方がありがたいけれど、維持管理のためにはそうも言ってもらえないのではないかな。
32	16	2 求められる機能	いつでもそこに行けば、まとまって見られるというのは、仏像ファンにとってはうれしいことなので、どこかの美術館か博物館などで公開していただきたい
33	16	2 求められる機能	韓国で開かれるという仏教文化展について、こうした取り組みも今後とも続けてほしい。
34	16	2 求められる機能	美術館や博物館が分散して離れた場所にあると、行きづらい。今回の「別の展示保存施設」について、1箇所を集約されて、アクセスのイイ場所にある事が理想。主要駅(大津駅とか)からの直通バスがあれば、尚嬉しい。
35	19	3-(1) 選定にあつての課題の比較	琵琶湖文化館の機能の継承として仏教美術は重要と思うが、当該館には仏教美術のほかに江戸期の絵画も多くある。これらの作品についても近代美術館で収蔵。展示することも必要と考える。
36	19	3-(1) 選定にあつての課題の比較	琵琶湖文化館は独立した組織と体制と態勢で対応してほしい。
37	19	3-(1) 選定にあつての課題の比較	展示場所は、人々がきやすい場所に(駅よりの交通の便のいい)
38	21	3-(3) 設置場所について	琵琶湖文化館の機能を県立近代美術館にまとめて「新生美術館」として再スタートすることを切に要望する。全国有数の仏教美術等保有の滋賀県の拠点であった琵琶湖文化館が、今までの実績・役割を継承し、新たな時代に益々対応する機能を確保するために近代美術館にまとめられたい。
39	21	3-(3) 設置場所について	県立琵琶湖文化館の休館とその後について常々心配しながら見守ってきた。県立近代美術館に併合して機能を維持していく方向の識者提言が出されたと聞き及び、少し安心している。

番号	頁	関係項目	意見・情報の概要
40	21	3-(3) 設置場所について	仏教美術は、滋賀県に次々と新しい発見もある。既に専門家も存在し、事実上活動出来る状況と思える。作品収集、研究組織も間違いなく構築できる項目となる。ただ、閉鎖した琵琶湖文化館の作品群の移籍館は、この中間報告では現在の近代美術館を上げているようだが、出来るならば、滋賀南部(大津市)ではなく、安土の施設、もしくはより県中部以北を考えるべきと思う。文化施設の県南部偏在は考慮すべきと考える。今後、現存の文化施設のいずれもが、必ず老朽を免れない。常にせめてこの次を案に上げる、長期展望の意識は持って進めて欲しい。
VI 近江の仏教美術等の文化財の新しい交流・発信拠点の整備に向けて			
41	22	2 新しい交流・発信 拠点のあり方について	市民の誇る近江の文化財をしっかりと守って、次世代に継承できる十分な施設と人材を確保いただきたい、くれぐれも文化財の保全を最優先でお願いしたい。
42	23	2-(1) 各部門に求められる スペース	よくありがちな、さっと観て終わるような展示ではなく、ゆっくり見て回れるスペース、展示物の詳細な説明などがあればいい。何度も訪れたいような施設ができればうれしい。
43	23	2-(2) 運営等にあたって 配慮すべき事項	仏教の美に関わる学芸員は特別な技術職であり他の何ものにも替え難い。
44	23	2-(2) 運営等にあたって 配慮すべき事項	県は今後、近代美術館に琵琶湖文化館の作品を移動するようだが、その際は、ぜひともミホミュージアムのように照明などにも工夫をこらし、荘厳な雰囲気なかで美を堪能できる展示をお願いする。
45	23	2-(2) 運営等にあたって 配慮すべき事項	仏像の展示は、横から後ろからも見えるよう展示してもらいたい。できればガラスケースなしで。お寺で観ているような雰囲気になればなおいいなあと思う。

2 一般的なご意見(「美の滋賀」やアール・ブリュットなども含めた意見など)

46	「滋賀県そのものが美術館」を目指すためには、美術品などの物を動かす・集めるのではなく、人が移動する・訪れるということが大切。滋賀県には、仏像など美術館の中で見るもの以外に、その場の生活や自然・空間といった場所そのものに良いところがたくさんあるように感じる。
47	「アール・ブリュット、近美、仏教」は滋賀の魅力になるのか。あまり、滋賀と聞いてスッと出て来なかった。目立ち始めた3つを、これから育てていく感じかなと思う。
48	仏教美術やアール・ブリュットなどを滋賀から発信し、それらに触れるなかで、次世代の子どもたちの中から新しい才能、芸術家が出てくると思う。その人たちが発表する場やチャンスをもっと広げられないか？
49	アール・ブリュット、近代美術、仏教美術の3つが共存する具体的なプランはあるのか？それぞれが別々の方向に発信されてしまうのではないかということ、個別発信された時にそれが大きく育つのかということが少し不安。
50	近代社会＝規格で秩序立てる社会を考えると、アール・ブリュットやコンテンポラリーアートをその外だと捉えるのは理解できるが、仏教美術まで括るのはやや無理があるように思う。
51	滋賀県立近代美術館で、仏教美術、アール・ブリュットを併せて発信するのは盛り沢山だが本当に可能か。対応する施設の増設、専門職員の確保など相当ハードルが高いと思う。従来型の美術館の発想ではとても無理。革新的な取り組みが必要。
52	美術とか美術館とかは分かりにくいけど、古代・中世・近代とか、近江仏教の美とかはわかる。近江仏教の美の灯を絶やすな。
53	有楽町にある滋賀県のアンテナショップはやや「そっけない」印象。アンテナショップからヒット商品が生まれることもあるので、もう少し有効な活用ができないかと感じる。

3 県広報誌『滋賀プラスワン』での「美の滋賀」特集記事への感想

ア 仏教美術等の滋賀の「美」の保存・継承について

54	滋賀の美は人々にとってとても大切なものだった。風景だとか昔からある建物とか、また新しく作り出される物とか、それらのもの全部ずっと大切に守って、いつまでも残しておきたい。滋賀に帰ってきたらほっとできるものを、たくさんこれからも残してほしい。
55	本当に身近に地域の人々に愛され守られた宝物が多いと思う。特に湖北の仏像はその代表だと思う。暮らしの中で祭りの中で、仏像を大切に守る習わしが今でも続いているのはすばらしいことだし、これからも大切にしなければいけないものだと思う。また自然がすばらしいのも滋賀の“美”である。
56	滋賀県は、国宝、重要文化財の数が全国4位だとは知らなかった。驚く限りである。昔から近江は地理的にも重要な地域であるが、それよりも、古来近江の人々が暮らしに根ざした「美」を大切にしてきたからではないか。

イ 仏教美術等の滋賀の「美」が地域に溶け込んでいる魅力について

57	滋賀には大都市の派手さはないが、それほど管理されず、仏や神々が静かに宿る風景や建物が数多くあって大変美しく、住む人の暮らしの中に溶けて懐かしく、心穏やかになれる場所だと再認識した。
58	滋賀の国宝、重要文化財の数が全国第4位とは驚いた。寺と神宮の社数は京都に次いで全国2位のはず。京都、奈良の次ではなかったのか。地元では価値を知らず、見落とされている物件が多いのではないか。政治の中枢から離れた土地柄なので、古き良きものがひっそりと佇み、地域の景色に溶け込んでいると思う。
59	移り住んで3年、はじめの頃はとりあえず京都の社寺へと出かけていたが、滋賀にもたくさんのお寺や趣のある場所があることに徐々に気づき、色々まわっている。京都よりも静かで手を加えていない良さがある。何よりも高台から眺められるびわ湖の美しいこと。カメラを片手に歩いていると、滋賀ってこんなに見所あるんだとつくづく感じていたところである。ただ、私は車を運転しないので交通手段が限られていて、もっと行きたい所はあるのだけど、なかなか行けないというのが課題である。ミホ・ミュージアム、一度訪れたが、とても印象的な美術館。

ウ 仏教美術等の滋賀の「美」の発信について

60	この秋は、「神仏います近江」という近代美術館、MIHOMUSEUM、大津市歴史博物館、三館合同の展覧会を巡った。秋の自然の美しい中、すぐれた展示品を鑑賞した。「何と多くのすばらしい美術品が県内に存在しているのだろう」と、認識を新たに感動した。日本や世界に向けて“美”を発信する機会が、これからどんどん増えればさらにすばらしい滋賀県になると思う。
61	滋賀県が国宝、重文の数が全国4位と知り驚いた。古くから交通の要所であった近江の地。今NHK大河ドラマの舞台となり、多くの戦国武将を輩出。また多くの武将が訪れた地でもある。また、近江商人発祥の地、先人たちが残した「三方よし」「しまってきばる」など多くの家訓は、現在でも充分生きていて他県に誇れる目に映らない滋賀の“美”と絆の一つと思っている。
62	滋賀が国宝、重要文化財の数が全国第4位という事ことを初めて知り驚いた。また、アートが芸術という特別なものではなく、衣食と同じぐらい必要なものであり、広い意味でもっと生活の中に取り入れたいなあと感じた。
63	美の滋賀の対談、勉強になった。滋賀は映画のロケ地としてもとても魅力的な所である。自然や文化財を生かした取り組みもできると思う。
64	近年、仏像や史跡に興味湧き、奈良や高月観音の里まつり、安土城跡、小谷城跡などに行っていたので「神仏います近江」展楽しみにしていた。歴史博物館、近代美術館に行き、歴史・仏教など勉強したいと感じた。アール・ブリュットも興味がある。様々な取り組み楽しみにしている。

エ 「美の滋賀」特集記事を受けとめての自身の思いについて

65	滋賀県は伝統的文化財・美術品に接する機会も多く、美に対する眼は豊かにできる。それと共に、自然を背景とした「心の美」も一層高めていきたいと感じさせられた。
66	滋賀県という国宝・重要文化財の宝庫に住みながら、あまりにも美意識の欠如を思い知らされた。改めて自分自身の意識改革が何よりだと思った。
67	滋賀県は国宝、重要文化財が全国4位と知り意外だった。自分のすんでいる町に、身近な所に色々と歴史文化財があふれているなんて……。機会を作って自分の目で確かめたいと思った。
68	滋賀県の国宝・重要文化財の数が日本の中で4位だということに驚いた。高い評価を受けている信楽焼などの滋賀の文化が、東日本の震災のために行動したことに感動したと同時に、自分でも何かできることがあるのではないかと感じた。

オ 滋賀県民としての誇りなどについて

69	京都より寺社の数が多いことは知っていたが、県ゆかりの画家がいること、棚田・えり・信楽焼・・・世界に誇れること・ものがいくつもあるんだと再確認できた。今後私もこのような滋賀県民であることに誇りを持って生きたい。
70	嘉田知事と鷺田さんとの対談で、滋賀県が国宝・重文の数全国4位で、アール・ブリュットの拠点であると初めて知り、住人として誇りに思った。
71	私たちの住んでいる滋賀県が、国宝・重要文化財の数が全国第4位と分かり、ますますすばらしい県だと嬉しく思う。
72	滋賀県は、国宝・重要文化財が全国4位とは全く知らなかった。歴史の古いありがたい県だと思い、また観光客も増えるといいと思った。
73	普段の生活の中ではなかなか美術館に行くことはなく、最近では寺社に行くことが多いのだが、仏像の作りの細かさにすごいなあ連発である。滋賀と言えば琵琶湖。見ているだけで落ち着く。
74	滋賀に嫁いで45年、高島市に棚田原風景があることは知らなかった。滋賀県には、国宝・文化財もたくさんあるので、一度ゆっくりまわってみたい。